

ウエルシア薬局による熱中症対策の取組紹介

～熱中症対策におけるドラッグストアの役割～



2024年3月22日
ウエルシア薬局株式会社
営業戦略本部 地域包括推進部
星 晶博

お客様の豊かな社会生活と健康な暮らしを提供します

- 社 名 :ウエルシア薬局株式会社
 - 住 所 :東京都千代田区外神田2-2-15
 - 事業内容:調剤併設型ドラッグストアチェーン展開
 - 資本金 :1億円(2023年2月末)
 - 店舗数 :2,200店舗(2024年2月末)
 - 売 上 :971,031百万円(2023年2月期)
- ※1,144,278百万円(2023年2月期ウエルシアホールディングス株式会社)



ドラッグストア

健康生活品提供・栄養相談



管理栄養士

調剤薬局

服薬指導・健康相談



薬剤師

地域協働活動

協働による社会課題解決

健康維持・増進

疾病・介護予防

● 多主体協働による3つの地域協働活動

■ ウエルシア薬局が推進する3つの協働活動

「ウエルカフェ」[®] の利活用

- 1 健康増進（疾病・介護予防）活動、地域課題（孤立、コミュニティ衰退、買い物困難、デジタルデバイド等）解決活動の「場」として協働による取り組み、クーリングシェルター



地域活動への協働参加

- 2 ヒューマンリソース（＝薬剤師、管理栄養士）による店舗近隣地区における各種交流サロン等への参加（健康講座の講師や測定会の開催等）



移動販売事業の推進

- 3 買い物困難地域の地域住民への生活必需品の提供、健康増進とコミュニケーション促進活動（地域コミュニティづくり）を目的とした移動販売車の巡行



地域共生社会の形成・実現に向けた協働活動の実践

『ウエルカフェ』とは

welcia

『ウエルカフェ』[®] = 店舗内に設置したフリースペース

休憩の場

+

井戸端会議の場

Welcfe
ウエルカフェ

● 健康増進、福祉、文化活動などの地域活動を行なう場

公益活動を行う行政機関、社会福祉法人ならびに地域市民の利益に寄与することを目的とし、社会的課題の解決に取り組む、自主的、主体的に地域貢献活動を行う非営利団体（市民団体およびNPO法人）や市民が活動する「場」として無償提供するスペース

地域協働コミュニティスペース

地域社会における諸課題を地域で暮らす人々で解決していくための場
= 「コミュニティ」創造スペース



Welcave

ウエルカフェ

- 広さ: 20㎡ ~ 30㎡
- 座席: 12席 ~ 16席
- 設備: モニター、電源、
手洗台、掲示ボード
パンフレットスタンド

『ウエルカフェ』設置店舗数

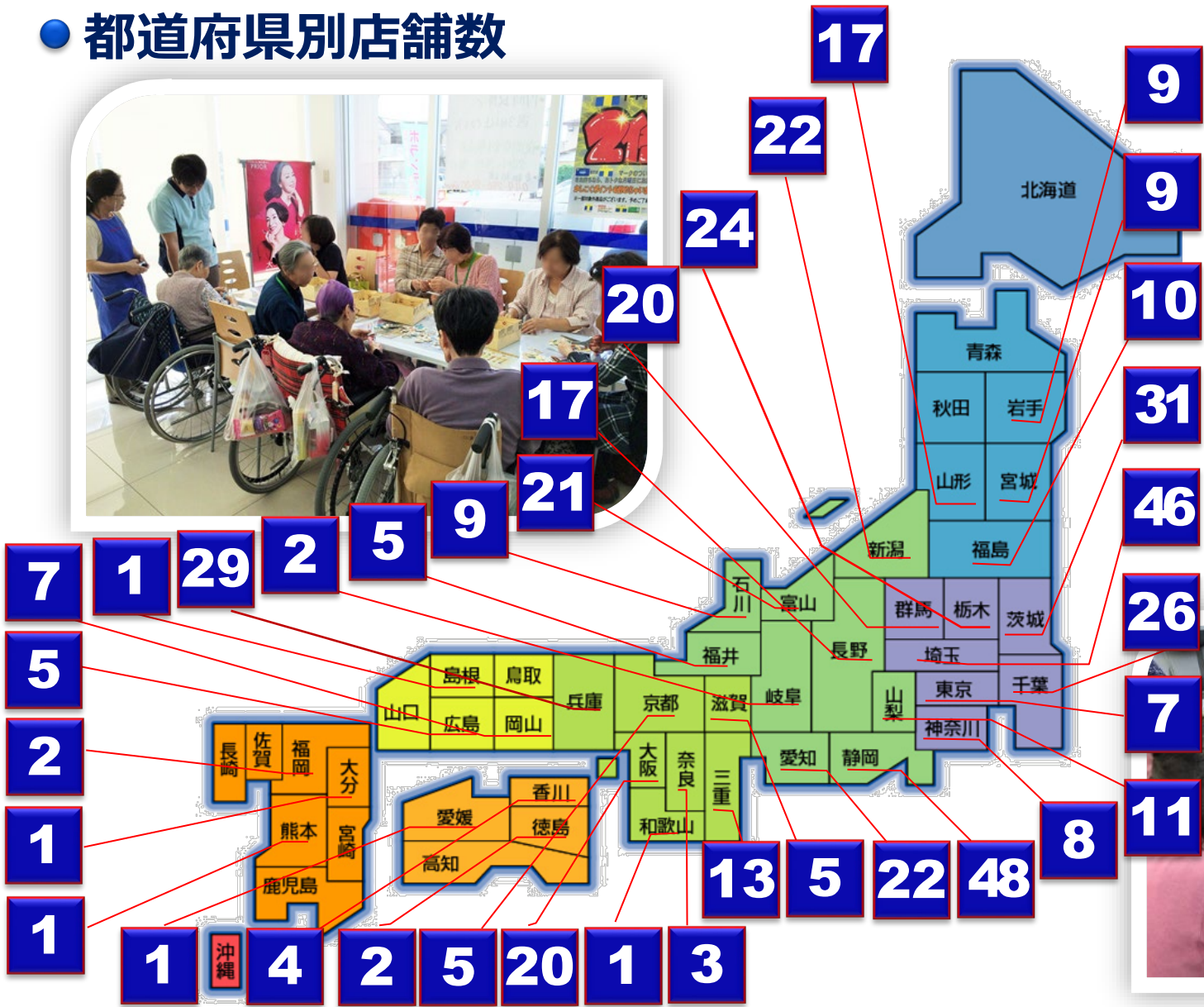


● 都道府県別店舗数



465店

(2024/2/29現在)





■ 高齢者へ向けた自治体との協働取組

一般介護予防事業

- 介護予防教室
- 健康体操
- 介護相談会



生活支援体制整備事業

- 居場所づくり
- 買い物支援
- 担い手(住民)会合



認知症総合支援事業

- 認知症カフェ
- 認知症サポーター養成講座





『ウエルカフェ』利用事例



■ 薬剤師・管理栄養士及び多主体協働によるウエルカフェの取組事例



健康測定会



栄養サロン



運動サロン



スマホ教室



脳トレ教室



メイクセミナー



子育て応援講座



オレンジカフェ

①『ウエルカフェ』による活動



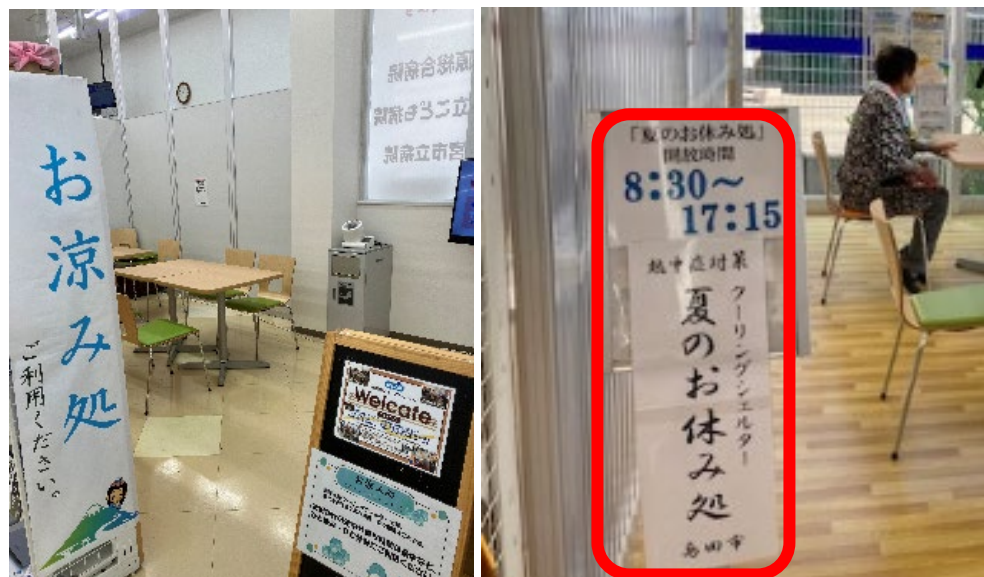
■自治体との協働による取組①■

【静岡県島田市とのクーリングシェルターへの取組】

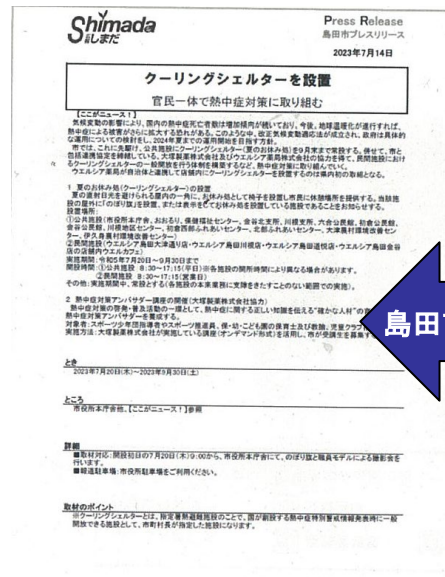
2023年7月20日より公共施設13カ所のロビー及び市内のウエルシア薬局4店舗内の地域協働コミュニティスペース「ウエルカフェ」を「夏の涼み処」として一般開放。

実施期間 令和5年7月20日～9月30日

利用時間 原則午前8時半～午後5時15分



自治体と同じツールを使用、開放時間を公共施設と合わせる事により住民が安心して利用できる



島田市と同時リリース

プレスリリースのタイミングを合わせる事で住民周知に繋がる取組

ウエルカフェを「夏の涼み処」として日頃より開放する事により

緊急暑熱避難施設としての住民周知がはかれ、避難が必要な際も地域住民が戸惑う事無く避難が出来る

【取組事例】

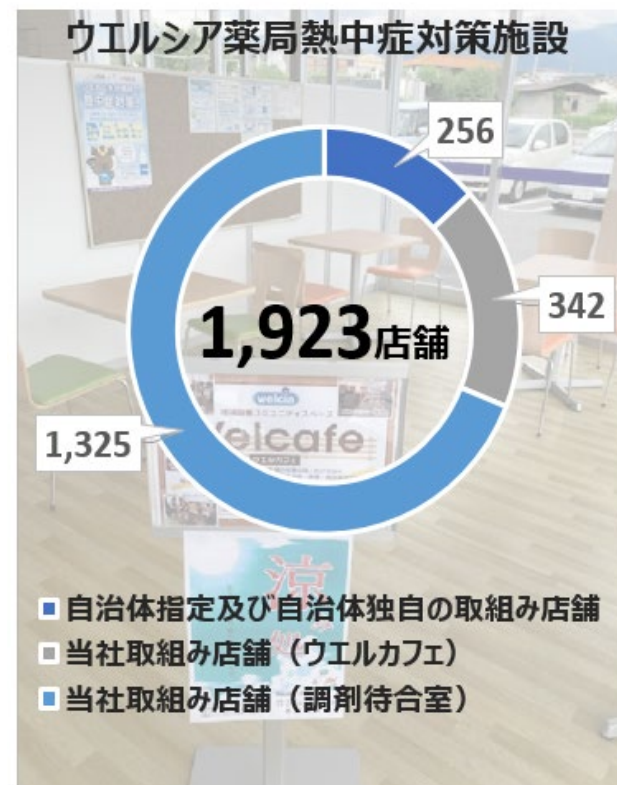
熱中症にご注意ください！

夏の
涼み処

熱中症予防のための
休憩場所としてご利用ください

※利用の際は、必ず事前予約が必要です。
※利用料は、お一人様100円（税別）です。
※利用時間は、午前10時から午後5時までです。

※利用の際は、必ず事前予約が必要です。
※利用料は、お一人様100円（税別）です。
※利用時間は、午前10時から午後5時までです。



※自治体との連携をしていない約200店舗のウエルカフェにおいても「夏のお休み処」として開放

②調剤待合室を活用した啓発活動

■調剤待合室を活用した取組■



【取組事例】

調剤待合室を常時開放し休憩の場の提供、「高齢者のための熱中症対策」のポスター・冊子を設置し高齢(65歳以上)を主体に熱中症予防の呼びかけを行う。



地域住民へ向け薬剤師が熱中症の啓発

	担当薬剤師	年齢	性別	啓発内容	返答
1		82	男	熱中症警戒アラートが発表されている旨を伝達の上、熱中症の予防行動として、外出をできるだけ控える、エアコンの上手な活用、こまめな水分・塩分補給を呼びかけ	塩分を意識的に摂るように気を付けます。
2		85	女	夜寝る時は寒くてクーラーを消してしまうが夜中に厚くて起きてしまうとお話。熱中症警戒アラートが発表されている旨を伝達の上、熱中症の予防行動として、設定温度だけで冷やそうとすると風が冷たくて寒くなってしまうので、クーラーを消すのではなく28度以下の寒すぎない温度に設定した上で扇風機を併用すると良いです。この時扇風機は直接体に当てずに壁に向けて当てると寒くなりにくい。特に睡眠薬などを飲んでいると熱中症や脱水に気が付きにくいので、睡眠に最適な環境を作るのがとても重要です。	扇風機を壁に当てるの、やってみます。睡眠薬を飲んでいるので気を付けてみます。
3		67	女	外が熱くて少し買い物に行くだけでも家に着くころにはぐったりしてしまうとお話。熱中症警戒アラートが発表されている旨を伝達の上、熱中症の予防行動として、外出の際には日傘や帽子、首の周りはわきの下などを冷やせるものを活用し、少しでも危ないと感じたら無理をせずに涼しいお店などで休憩を味わうように伝えました。	もうちょっとで家につくからと無理せずにこまめに休憩をとるようにします。首などを冷やせるものも活用してみます。

啓発内容を記録へ残し薬剤師の地域活動として地方厚生局へ提出

③移動販売を活用した啓発活動

■ 移動販売車を活用した取組 ■

【取組事例】

全国にて運行している移動販売車に搭載しているサイネージを活用

※2024年2月末現在15自治体17台運行



近隣に店舗が無く、情報の少ない地域においても、熱中症への啓発・啓蒙を通し健康増進に寄与。遠隔による薬剤師への健康相談も可能

愛知県岡崎市 移動販売車



④地域における熱中症対策としての役割

■熱中症対策におけるドラッグストアの役割■

①経口補水液を始めとした多種多様な熱中症対策商品を取り扱っている



②薬剤師・管理栄養士等の専門職を有しており、相談はもちろん日頃より専門知識を活用した健康情報の提供が可能



③地域住民の生活の一部として日頃より利用している為住民の来店障壁が無い

※年中無休・深夜営業・24時間営業により地域の健康ステーションとしての役割



④地域住民が気軽に利用できるウエルカフェを有している

※全国465店舗に設置、今後も拡大予定



休憩スペースを有しているドラッグストアはクーリングシェルターとして非常に有益であると考え